令和6年度(2024 年度)第1回

国民健康保険運営協議会議事録

日　時:　令和6年(2024 年)8月9日(金)　午後3時

場　所:　熊本市国際交流会館　3階　国際会議室

熊本市国民健康保険運営協議会

令和6年度(2024 年度） 第1回国民健康保険運営協議会議事録

1 開催日時　令和6年(2024 年)8月9日(金) 午後3時～

2 開催場所　熊本市国際交流会館 3階 国際会議室

3 議事
　1 令和5年度国民健康保険会計決算状況について
　2 その他

4 出席者
　坂田委員 山本委員 山内委員 谷口委員 井上委員
　田中(英)委員 宮崎委員 田中(弥)委員 丸目委員
　安田委員 西村委員 宮永委員 冨田委員
　計13名

5 欠席者
　宮本委員 小山委員 德永委員 藤本委員 紫垣委員
　計 5名

6 事務局
　健康福祉局長 健康福祉局総括審議員 健康福祉部長
　国保年金課長 国保年金課副課長
　計 5名

7 傍聴人 0名

8 議事録署名委員
　井上委員 西村委員

・新規委員紹介
・開会
・会長挨拶
・局長挨拶
・議事
　1　令和5年度国民健康保険会計決算状況について
　2　その他

【議長】：これからの進行につきまして、皆様のご協力を改めてお願いいたします。
本日の会議の議事録の署名委員を西村委員と井上委員のお 2 人にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

ではお 2 人お願いいたします。
議事のひとつ目に入ります。令和5年度国民健康保険会計決算見込についての審議に入ります。事務局からの説明を求めます。

【事務局説明】：令和5年度国民健康保険会計の決算見込について

＜決算概要について＞

・単年度収支：歳入 757.1 億円－歳出 764.3 億円＝収支 7.1 億円（赤字）
・累積黒字　：20.6 億円（R4 末）⇒13.5 億円（R5 末）

＜国民健康保険会計決算状況について＞

〇歳入
・歳入のうち保険料は被保険者数の減少に伴って減少。
・収納率はわずかに向上。
・一般会計繰入金のうち法定外繰入金について、4.8 億円のうち 2.8 億円は決算補填のための繰入金。計画的に減らしている状況。

＜単年度収支の主な要因について＞

・令和5年2月の運営協議会において、保険料を引き上げずに（約8千円）据え置いたことが要因。物価や燃料費の高騰が重なっていたこと、国民健康保険会計に留保資金があることなどから約 11.5 億円の赤字が見込まれたものの、引き上げないこととした。
・当時の見込みより赤字幅を削減することができたのは、歳出を削減できたことや国や県からの補助交付金をより多く確保することができたのが要因。

＜国保会計の決算収支の推移について＞

・令和元年度から令和4年度までは単年度収支が黒字であったことにより、留保資金が確保されていた。

＜主な項目の前年度比較＞

・被保険者数：5,496 人の減少。

・保険料1人当たり賦課額：料率は据え置いていたため、1人当たりの賦課額の増加は所得の増加に伴うもの。

＜医療給付費の推移＞

・令和5年度は被保険者数が減少しているが、1人当たりの医療給付費は増加。

（対策）

・収入を多く確保するために収納率を上げて賦課した保険料を回収し、交付金を多く受け取る努力をする。

・歳出を抑制するために、特定健診を進めることで医療費の適正化を目指す。

＜保険料収納率向上の取組等＞

・令和5年度は 92.02％（対前年度比＋0.18％）。上昇しているがほぼ横ばい。

・令和6年度に「保険料収納率向上対策」を策定し、4 つの基本方針を徹底することで収納率向上に取り組む。

・滞納の未然防止

国民健康保険料の口座振替の推進、キャッシュレス決済手段の拡充。

・初期未納対策

SMS を活用し納付勧奨を行っていく。

・資格及び賦課の適正化

所得に応じた賦課額にするための申請がなされていない状況。通知書を送る際に、減免の制度のことを周知徹底。収納率向上にもつなげていく。

・滞納整理の適正化

滞納処分の徹底。

＜特定健診受診率向上の取組＞

・令和5年度は 30.7％となっており、コロナ前の水準まで受診率が回復。

・SMS を活用した特定健診受診勧奨や、初めて特定健診対象となる 40 歳の方々に向けてキャンペーンを行うことで、受診率向上を図った。

・みなし健診の導入初年度の状況について、令和 5 年度のみなし健診情報提供依頼発送数 3,327 人に対して情報提供数 408 人、割合は 12.3％となっている。

・区役所、総合出張所等の窓口での特定健診の PR を進めていく。

＜医療費適正化の取組＞
・ジェネリック医薬品利用率は過去最高値の 84.8％を記録。
・適正服薬推進のため、適正服薬推進事業外部委託。医薬品金額には一人あたり平均で月額 2,266 円の改善効果が見られ、効果測定期間の3か月で約 14,300 千円の削減。

＜令和5年度の国保会計決算内訳＞
・［歳入］保険料収入：136.6 億円（R4）⇒132.0 億円（R5）、前年度比 4.6 億円の減少。

・［歳出］国保事業費納付金：約 220 億円を県に納めることで、522.7 億円を分配して頂いている。

【議長】： ただいまの説明につきましてご意見、ご質問等はございませんか。

【丸目委員】： 人口が減っていくのはこの状況では致し方ないとは思いますが、 人口が減っていくと医療機関にかかる方も減っていくので収支は変わらないのがいいのではないかと感じました。昨年度は保険料を据え置いたということで赤字になったとのことですが、保険料を納める方からするとジレンマもあると思います。 国保の事業は続けていかなければならないことなので、赤字が増えると来年か再来年には貯金がなくなる状況です。
お聞きしたいこととしては、保険料を払っていない方に対する処理は単年度でされているのか通算でされているのかを1つと、医療費を減らすためには予防事業を増やす必要があると思いますが、そのやり方や仕組み等を教えていただければと思います。

【事務局】： 1 つ目の質問についてですが、決算は単年度でございます。ただ滞納額というのは、払っていなければ債権の時効が成立するまでは累積で蓄積されていきます。このため、処分は後年度にも実施しております。もう一つの質問である予防につきましては、国保の事業として主に行っているものは、特定健診と特定保健指導です。これに加えて適正服薬等の事業も行っています。また市としては、健康づくり全般としてがんの健診等も他の課で推進している状況です。他にも元気アップくまもと等の広報・啓発活動も行いながら進めているところです。

【丸目委員】： ありがとうございます。私も感じているところとして、現在はコンビニやスーパーが発達して何でも欲しいものが手に入る状況ですが、新型栄養失調にかかる方が多いと聞いております。これはカロリーが足りていても栄

養のバランスが悪いといった状態のことで、今後も多角的に力を入れていただければと思います。

【事務局】： 貴重なご意見ありがとうございます。国保の方でも、いまどんな栄養が足りないのか、何が問題なのかということで、着目をしているのが糖質と脂肪でございます。熊本市では、今まで人工透析の人数が多いことで医療費も上がっているという状況がございました。現在はその手前にある糖尿病予備軍に着目しておりまして、解消するための方策を模索して、少しずつ取り組みを始めている段階です。

【議長】： 他にございませんか。特に無いようですので、これをもちまして本日の審議は終了いたしたいと思います。長時間にわたり熱心なご討議ありがとうございました。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

・閉会

令和6年（2024 年）8月9日

熊本市国民健康保険運営協議会

議長

____

署名委員

____

署名委員

____